

どんな職業か

茶碗やお皿などの食器、タイルや洗面台、トイレの便器などの日用品、人形や置物などの工芸品や美術品など、陶磁器製品を作る。

基本的な作業の流れは、陶土（粘土の一種）に長石や石英といった鉱物を混ぜて原料の坏土（はいど）を作り、それを成形し、乾燥させたあと釉（ゆう）薬をかけ、高温で焼き上げて製品にする。成形作業は大きく分けると、「ろくろ成形」（ろくろを回転させ、材料を成形する方法）と「鑄込み成形」（石こう型に流し込む方法）がある。また、絵付けといって、焼き上げたあとの半製品に美しい絵や模様を入れる作業も重要である。最後に検査を行い、品質やでき具合を目で確かめる。

各工程をほとんど手で行う伝統的な技法から、最新の自動成形機やロボット、コンピュータを使う場合まで、その事業所（工場や工房）によって様々である。

就くには

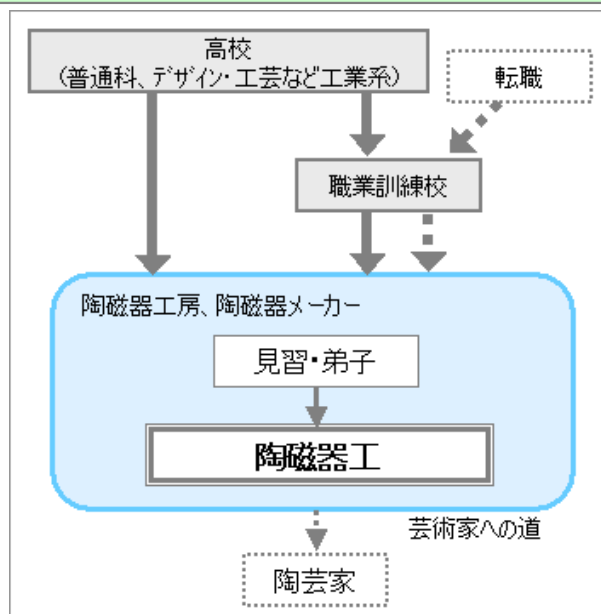
陶磁器工になるには特に学歴や資格は必要とされないが、工業系高校などで陶磁器の技術やデザインを学んでおくに役立つ。

陶磁器製造には、機械を使う工場生産から、手作業で行う伝統工芸的生産まであり、手作業による工芸品の制作で一人前になるには10年以上の修業が必要である。

所定の技能を習得した後、職業訓練校や窯業大学校などでさらに高度な技能を習得することが可能であり、陶芸家として活躍したり、陶磁器生産の分業の中で成形や絵付けの技能を専門的に身につけ、独立することも可能である。

関連する資格として、厚生労働省が実施する技能検定の「陶磁器製造技能士」の資格があり、取得すると技術の証明として評価される。

成形や絵付けではデザインセンス、芸術的感覚が求められる。



労働条件の特徴

陶磁器製造は原料を産出する地域を中心に発達してきたが、現在では全国各地に散在している。主な産地は、愛知県の瀬戸、岐阜県の高岡、滋賀県の信楽、佐賀県の有田、栃木県の益子、岡山県の備前などである。

就業者は40歳以上の中高年が6割以上を占めており、男女別では男性が約6割となっている。

労働時間は朝から夕方までの通常の勤務形態で、残業が発生することは少なく、交替制勤務などもほとんどない。

最近では、食器だけでなくキャラクター製品やギフト製品など多様な製品が求められており、自動機械による少品種（製品の種類が少ない）の大量生産から、機械と手作業で行う多品種（製品の種類が多い）の少量生産へと変化している。

参考情報

関連団体 日本陶業連盟
電話:052-935-7231 FAX:052-935-7254

関連資格 陶磁器製造技能士